

アンゴラ共和国月報

2016年8月号
在アンゴラ日本国大使館

主な出来事

【内政】

● MPLA 党大会の開催(17～20日)

【外交】

● 国連事務総長選候補者3名によるアンゴラ訪問(22～23日)

● TICADVI開催(27～28日)

● SADC 首脳会合(30～31日)

【経済】

● アンゴラ政府が外国仲裁判断の承認及び執行に関するニューヨーク条約批准(12日)

● 2016年度修正予算案が国会で承認(15日)

内政

1 MPLA 党大会

(1) 17～20日にかけてMPLA 党大会が開催された。ドス・サントス大統領(MPLA 党首)が議長を務め、中央委員363名中355名の出席を得て、ジョアン・ロウレンソ国防大臣のMPLA 副総裁(賛成351票)、アントニオ・パウロ・カソマ事務局長(賛成353票)及び政治局47名の選出が行われた。またカルロス・フェレイラ・ピント氏及びジョアン・バティスタ・クスマア氏がそれぞれ中央委員会規律会計部(23名で構成)の調整官及び副調整官に任命された。

(2) 同会合でのMPLA 党声明では、先日の党大会で採択されたMPLA 党首戦略動議の実現に向けて中央委員会一同が全力で取り組む旨、またドス・サントス大統領が今月28日で74歳の誕生日を迎えるにあたり、党員一同が大統領の健康と党及び国家の運営の成功を祈念す

る旨が表明された。

(3) 右会合では、政治局事務局の選任も行われ、以下のとおり決定した。

国際関係顧問 : ジュリアン・マテウス・パウロ(※前事務局長)

情報・広報顧問 : マリオ・アントニオ・デ・セケイラ・カルヴァーリョ(留任)

行政財務顧問 : ジョアナ・リナ・ラモス・バティスタ(留任)

政務・選挙顧問調整官 : ジョアン・デ・アルメイダ・マルティンス(留任)

政治局事務局総括(兼MPLA 事務局長) : アントニオ・パウロ・カソマ(※元首相)

組織調整顧問 : ジョルジ・イノセンシオ・ドンボーロ(留任)

軍人社会復帰問題顧問 : ペドロ・サン・セバスチャン

経済社会顧問 : マヌエル・ヌネス・ジュニオール(留任)

(4) あわせて、政務局はドス・サントス党首の提案を受けて、ロベルト・ヴィ

クトル・アルメイダ氏（※前副総裁）を聖希望基金（Fundacao Sagrada Esperanca）の理事長に任命した。

（8/23 Angop）

2 カビンダにおける武力衝突

（1）アンゴラの原油生産の半分を占めるカビンダ州の独立を要求するFLEC（カビンダ解放戦線）の司令官は、同戦線の創始者ズィタ・ティアゴ将軍の本年の死去以降、強硬な姿勢を強めている。

（2）FLECはまた、8日の声明文にて、40名程度のアンゴラ軍人を既に殺害したことを発表し、中国政府に対しカビンダ州に在住する中国人を本国に引き揚げさせるよう要求。

（3）直近の戦闘は、ディンジェ及びマサビにて5日及び6日に発生。FLECはまた、本件は8月初頭の2名のFLEC戦闘員及び17名のアンゴラ軍兵士が殺害された事案を受けてのものであると発表した。アンゴラ当局によるFLECの声明への反応はない。

（8/8 ロイター通信）

3 黄熱病ワクチンの紛失

（1）AP通信のレポートによると、黄熱病ワクチンの約10%が予防接種キャンペーンの渦中に紛失され、紛失数は100万本以上に達する見込み。アンゴラ政府は同レポートの指摘に抗議。サンボ保健大臣はAP通信に対し、黄熱病ワクチンの転用などは決して起きていないと表明した。

（2）アンゴラにおける黄熱病のアウトブレイクにより、5000名以上が感染し、450名が死亡したと推測されている。

（8/5 ヒュマノスフィア紙オンライン版）

外交

1 対日関係

（1）TICADV I開催

アブラアン・ゴルジェル経済大臣が8月27日（土）、28日（日）にケニア・ナイロビで開催されたTICADV Iに出席した。アンゴラ政府はTICADV I期間中にエネルギー、農業、輸出セクター促進を目的として、日本企業との間で5つのパートナーシップ協定の覚書を締結した。

（8/29 Mercado, JA）

（2）日英協力

日本は草の根・人間の安全保障無償資金協力を通してNPAのマランジェ州の地雷除去活動に203,384米ドルの支援をした。このプロジェクトに、英国が20,988米ドルを追加支援することを決定した。両国の協力は、1月に行われた日英外務・防衛閣僚会議にて合意されたもの。

（8/11 SAPO・Angop, 8/12 Angop, 8/13 JA）

2 中国・アンゴラ関係

（1）在アンゴラ中国大使によるドス・サントス大統領表敬訪問
ア 26日（金）、ドス・サントス大統領とCui Aimin 在アンゴラ中国大使が大統領府において、二国間戦略的パートナーシップについて議論した。本会合は、昨年6月にドス・サントス大統領が訪中した際に合意された中アンゴラ二国間戦略的パートナーシップの枠組みで行われるハイレベル会合の一環として実施された。
イ アンゴラと中国は二国間協力関係強

化に向けて、定期的にハイレベル会合を実施。二国間の相互戦略的協力の分野は商業、農業、交通、通信、保健、IT教育にわたる。

(8/26, 8/27JA)

(2) 医療分野における中国との協定

ア 8月30日、ブラガンサ外務副大臣及び Cui Aimin 在アンゴラ中国大使が医療分野における二国間協定に署名したことにより、年末までに12名の中国人医師団が当地へ派遣され、ルアンダ総合病院にて無料診療が実施されることとなった。中国大使によれば派遣される医師は、整形外科、小児科、内科、鍼師など様々で、右医師団はアンゴラに着任してから2年間勤務することが予定されている。

イ 医師の派遣は2009年から実施されており今回が4回目の実施。中国は過去3回の派遣で50名以上の医師団を派遣している。前回の派遣である2013年～2015年で対応した件数は6万2千件にのぼり、うち4000件の重症者治療と1800回の手術を実施している。

ウ 今年初旬にはアンゴラでの黄熱病発生に関し、中国政府は50万ドルの支援を行っており、中国大使によれば今後は650万人民元相当の医療機器の供与も予定されている。

(8/31 JA)

3 北朝鮮・アンゴラ関係

(1) キム・ヒョンイル (Kim Hyon Il) 駐アンゴラ北朝鮮大使はルンダ・ノルテ州ドンド市を訪問し、既存の保健分野における二国間協力に加え、水道、IT及び建設の分野でルンダ・ノルテ州の発展に資するプロジェクトへの関心を表明。

(2) 同大使は、州立病院、火力発電所、水処理場、アゴスティーニョ・ネト初代大統領の胸像を訪問し、ルンダ・ノルテ州における様々なインフラの発展を認め、右実績は州政府当局の手腕を反映していると評価した。

(8/3 JA)

4 米国・アンゴラ関係

(1) ファティマ・ジャルディン環境大臣が、米国政府より9月18～23日にワシントンで開催される太平洋国際会議への招待を受けた旨を発表した。

(2) 同大使はジャルジン環境大臣表敬の際に、アンゴラの海洋環境保護の面で果たす役割の重要性に触れつつ、アンゴラ政府高官にも出席を要望する旨を伝達した。アンゴラ政府は同国際会議で、自国の経験や実行している環境プログラムに基づき、各国が海洋保護に取り組む必要性について訴える見込み。

(3) リメ米国大使はアンゴラ政府が取り組む環境プログラムを評価しつつ、近年はアンゴラやボツワナで実施している環境監視官の育成プロセスにも言及し、米国がアンゴラの環境分野での発展支援を継続させていく準備がある旨を伝えた。

(8/11 JA)

5 国際機関・アンゴラ関係

(1) 国連事務総長選候補者による当地訪問

ア 22日、イリーナ・ボコバ氏、スサナ・マルコーラ氏、クリスティアーナ・フィゲーレス氏の3候補が別々にヴィセンテ・アンゴラ副大統領(いずれもシコティ外務大臣、アンゴラ国連常駐代表が同席)を表敬し、次期国連事務総長選挙

に向けた支持要請を行った。同候補者3名は別途、シコティ外務大臣とも意見交換を実施。

イ イリーナ・ボコバ・ユネスコ事務局長はアフリカの貧困の撲滅、若者への機会創出への取り組みを表明しつつ、アンゴラ政府に対して支持を要請。ヴィセンテ副大統領表敬の際には安保理でのアンゴラの役割の重要性に言及しつつ、アンゴラ及びアフリカの平和構築と開発に向けて意見交換を実施した。

ウ スサナ・マルコーラ亜外務大臣は食糧の安全について言及し、選出された暁には右を優先して取り組む旨を表明。特に農業開発に関心があり、アフリカの安定性は食糧安全保障を通じて達成できると述べた。

エ 23日、クリスティアーナ・フィゲ雷斯国連気候変動条約事務局長は自らの国連勤務経験を活かしてマルチの外交関係強化に努める旨を表明した。

(8/23 JA)

(2) 当地EU大使によるアンゴラ副大統領への離任表敬

ア 15日、クリーケ在アンゴラEU大使がマヌエル・ヴィセンテ副大統領に離任の挨拶を行った。クリーケ大使はアンゴラへの投資に関心をもつ企業が多く存在することに触れ、投資促進のためにビジネス環境の改善が必要であり、投資の保護が確保されることが重要と述べた。同大使によれば、EUと商務省の間で既にビジネス環境改善に向けたプロジェクトが存在し、加えてEUは水、衛生分野、持続可能な農業、高等教育、職業訓練におけるアンゴラとの協力関係の強化にも

関心を有している。

イ 2012年7月には「Caminho Conjunto Angola-Uniao Europeia」(英: Joint Way Forward Angola-European Union)と題した二国間協力の中で、アンゴラとEUは第三回会合を実施し、2012年7月に開始した特別なパートナーシップ関係の進展の評価と、アンゴラ政府による開発計画の実行に関する評価がなされる予定である。

(8/16 JA)

(2) SADC首脳会合

ア 8月30日及び31日、スワジランドにて第36回SADC会合が実施され、アンゴラからはシコティ外務大臣が出席。会合後にシコティ外務大臣は、アンゴラの国連人権理事会立候補に関するSADCからの支持を取り付けた旨発表した。

イ アンゴラは、2017年までの1年間の任期でSADC政治・安全保障理事会の副議長国を務めることとなっており、その間はタンザニアが同議長国を務める。SADC首脳会合ではPelonomi Mtoi ボツワナ外務大臣のアフリカ連合委員会(AUC)議長立候補についてもSADCとして支持することを決定。

ウ SADC会合では、コンゴ(民)の安保理決議2270号の履行、レソトの平和構築、マダガスカルの和平推進についての議論がなされた他、国際社会との連携により、南部アフリカ地域発展やエルニーニョ現象に因る干ばつ被害を受けた地域に対しての支援についても議論された。

(9/1 JA)

経済

1 主要経済指標

(1) 物価

ア 国家統計院(INE)が発表したルアンダ市における7月期のインフレ率は 4.04%(前月は 3.27%)。アンゴラのインフレ率は 4.26%。

イ 物価指数が前月比で最も上昇したのは保健(6.31%), 食料・飲料(アルコール除く)(6.22%), モノ・サービス(4.78%)。

ウ ルアンダ州以外では, ルアンダ・ノルテ州が最も高い月間物価上昇率となる 6.54%を記録。一方で, ウイーラ州が最も低い月間物価上昇率となる 3.68%にとどまった。

(2) 金利

ア 8月29日に開催された第58回金融政策委員会(CPM)は, 政策金利のBNA基礎利率(Taxa BNA)を, 年率 16.00%と前月から維持と発表。銀行間取引利率LUIBORのオーバーナイト物は年率 13.92%で前月から維持。

イ 流動性吸収ファシリティの7日物(市中銀行がBNAに預けている準備預金のうち, 法定額を超過した部分に対する7日間当たりの利率)は年率7.25%で前月から維持。

ウ 限界貸出ファシリティ(BNA から市中銀行へのオーバーナイト物貸付金利)は年率20.00%で前月から維持。

(3) 為替市場

8月末, 為替相場は USD1=166.715AKZで推移(アンゴラ中央銀行 9月2日報道発表)。

2 金融・銀行・財政

(1) BPC (貯蓄信用銀行) の不良債権比率上昇

ア 当国与党MPLA関連企業を中心と

して融資をしているBPC(貯蓄信用銀行)の不良債権比率が著しく上昇。アンゴラの国営BPC銀行が最近オンラインで開示した年次報告書によれば, 同行の債権の3分の1以上が既に返済期限を迎えている。2014年12月から2015年12月の間に, BPCの不良債権は, 620億クワンザ(現在の為替レートで3.74億ドル)から7億ドル相当の1140億クワンザとなり, ほぼ2倍となった。

イ 同行は, かつて公務員給与の支払い及び農業等のセクター向けの政府ローンを扱っていたが, 昨年一時的にローン貸し付けを中断。2015年終盤, アフリカ開発銀行は, 3.25億ドル相当のクレジット・ラインを同行に貸し付けている。

ウ BPCに限らず, 石油及び建設分野に対するエクスポージャーが嵩んでいる銀行を中心として, 多くのアンゴラの地場銀行も, 本年不良債権比率の上昇を見込んでいる。アンゴラの金融セクターに占める不良債権比率は, 2011年12月の総貸付額比2.4%から, 2015年7月(直近の入手可能な承認済みデータ)には18.2%まで上昇し, 今後さらに悪化する見通し(EIU 8/8)。

(2) 国会での2016年度修正予算案承認。

8月15日, 与党MPLA及びFNLAの賛成多数により2016年度修正予算案が国会で承認(野党CASA—CE, UNITAは反対, PRSは棄権)。2016年当初予算案で基準とされていた石油価格45ドル/バレルが, 修正予算案

では41ドル／バレルに修正された。このため、歳入予想が当初の3.5兆クワンザから3.3兆クワンザに6.2%減。石油産業由来の歳入予想は、1.7兆クワンザから1.5兆クワンザ強に10.5%以上減。当初予算案で見積もられていた経済成長率はGDP比3.3%から1.1%に下方修正された。歳出面では2016年当初予算案比で公共投資が17.8%増、2015年予算執行額比18.2%増に相当する、9611億クワンザの増加となった(ママ)。また2016年修正予算案の変更により、公的投資への歳出のGDP比が5.7%に増加する(JN 8/16)。

(3) 2016年度修正予算評価

ア イーグルストーン社発行のアンゴラ経済報告書(2016年8月23日)が、2016年修正予算案の分析結果を報告。イ 国会に提出された2016年修正予算案では、アンゴラのGDP成長率は、当初予算案の3.3%から1.1%に下方修正。石油セクターの経済成長率は、2015年に6.3%を記録したものの、2016年当初予算案では4.8%、2016年修正予算案ではわずか0.8%にまで引き下げられた。非石油セクターの経済成長率は、2015年に1.5%と既に微弱であったが、2016年修正予算案では1.2%まで引き下げられた。ウ 2016年修正予算案が基準とする原油価格は、当初案の45ドル／バレルから9%減の40.9ドル／バレルに引き下げ。エ 他方、歳出額(債務償還分を除く)

は当初予算比4.4%増で、GDP比26.6%相当の4.485兆クワンザ。2016年修正予算案においては、投資への歳出が当初案比で17.8%増加。アンゴラ当局は、2016年に既に確保された海外からの融資による歳入を、2016年の残された期間中に公的投資増加のために歳出する旨企図しており、経済活動を再始動し、GDP成長予想を押し上げたいと考え。債務償還分の歳出額は、2兆70億クワンザ。歳出総額は、歳入総額と同額の6兆9600億クワンザ。

オ 2015年11月の15億ドルのユーロ債発行以降、アンゴラは120億ドルを国際市場で確保。内訳は中国開発銀行(CBD)より50億ドル、中国工商银行(ICBC)、中国開発銀行(CDB)、及び中国輸出入銀行(Exim Bank)より計19.8億ドル、西カイシャ・バンクより4.5億ドル、各国輸出金融機関より年末までに11.8億ドル、融資枠組み合意及び財政支援合意として年末までに33億ドルである。また、アンゴラ政府は、これまでに国内市場で国債を5126億クワンザ分発行した。

カ 政府債務はGDP比50%に到達する見込みで、アンゴラ政府は、歳出全体の50.1%に相当する部分を税収によって賄う意向。

キ 直近のアンゴラ当局の文書によれば、6月末時点のアンゴラ政府の債務(公社除く)は479億ドル。内、全体の53%に相当する255億ドルが対外債務。ク アンゴラの債務比率は非常に速いペースで増加していることは明白で注視が

必要である。外貨建て債務の増加及びクワンザ通貨の更なる切下げの可能性を勘案すると、アンゴラが債務弁済の義務を果たすことが更に難しくなる可能性がある（イーグルストーン社アンゴラ経済報告書 8/23）。

3 投資関連

(1) 外国仲裁判断の承認及び執行に関するニューヨーク条約

8月12日の官報でアンゴラ議会が外国仲裁判断の承認及び執行に関するニューヨーク条約を承認した旨が発表された。これによりアンゴラは157ヶ国目の加盟国となり、右により外国の仲裁判断を国内で承認し、これに基づいて強制執行をすることを認めることとなった。アフリカ大陸の経済の雄であるアンゴラが非加盟だった点が、外国企業がアンゴラに進出するにあたっての一つの障害であったが、投資家にとって前向きなサインとなる。なお今後、アンゴラは批准書を国連事務総長に提出し90日後から効力を有することとなる。

(8月18～20日各紙)。

4 石油・ガス

(1) ソナンゴル社によるコバルト社権益購入辞退

コバルト・インターナショナル・エナジー (Cobalt International Energy) 社が有する18億ドル相当のブロック20/11及び21/09の油田権益をソナンゴル社が購入する件につき、イザベル・ドス・サントスソナンゴル社取締役会会長が、同社の権益を第三者に販売する旨推奨する書状をコバルト社宛てに発送。ソナンゴル社によるコバルト社の油

田権益購入が撤回されることとなった (FT 8/2)。

(2) アンゴラ原油・天然ガス埋蔵量

ソナンゴル社によるデータをLusa社が合算したところによれば、2015年にアンゴラにおいて新規に特定された原油の確認埋蔵量は5.31億バレル。また2015年に新規に確認されたアンゴラの天然ガスの埋蔵量は、9.492兆立方フィートとなり、2014年比268%増となった。2015年に新規に確認された原油及び天然ガスの埋蔵量を合算すると、21.76億バレルの原油に相当する。

ジェロニモ・ソナンゴル社取締役 (探査及び生産担当) によれば、アンゴラの原油埋蔵量は、確認埋蔵量が35億バレル、予想埋蔵量が108億バレル。

アンゴラは現在、日量170万バレルの原油を生産しており、アフリカ第1の産油国となっている (JN 8/8)。

(3) ソナンゴル社の2015年度会計監査報告書

アーンストアンドヤング社によるアンゴラ国営石油会社ソナンゴル社の2015年の独立会計監査報告書の内容を報じた。

アーンストアンドヤング社は、2015年12月31日時点のソナンゴル社の借方資産を88億ドルと報告。内、最大の資産項目は58億ドル相当の鉱物資源資産で、同項目は固定資産 (注: 現金等の活用可能な形態に変換するのに1年以上必要な資産)。58億ドルの鉱物資源資産の内、32億ドルは未確認の埋蔵分であり、資源探査計画に含まれていない分も計上されている (8/12 EX)。

JA: Jornal de Angola, EX: Expansão,
EIU: Economist Intelligence Unit, ME:
Mercado, DN: Diário de Notícias, VOA:
Voz da América, BB: Bloomberg, JN:
Jornal de Negócios, FT: Finacial Times